

### 高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議において指摘された課題

- 「認知症」は、「認知機能正常」から「軽度認知障害」、「認知症」へと徐々に進行するものであり、明瞭な境界がない。
- 「認知症」の原因疾患には多様なものがあり、1度の検査で判断することは困難である場合があるとの指摘がある。



### 本調査研究の目的

- 認知機能と安全運転の関係に関する調査研究を進め、認知機能に応じた対策の在り方について検討する。

# 改正道路交通法の施行状況

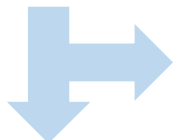
【資料 2】

〔 集計期間  
平成29年3月12日から平成30年3月31日 〕

2, 105, 477人 認知機能検査受検者数（更新時+臨時）

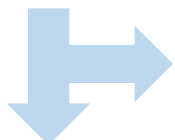


57,099人 第1分類（認知症のおそれがある）と判定された者



5,339人 再受検→第2・3分類と判定  
2,552人 自主返納  
942人 免許失効（更新せず）

41,486人 臨時適性検査（専門医の診断）の通知  
又は診断書提出命令を受けた者



3,046人 再受検→第2・3分類と判定  
13,563人 自主返納  
3,575人 免許失効（更新せず）

16,470人 医師の診断を受けた者



13,063人 免許継続  
うち9,563人が一定期間後の診断書提出  
（原則6月後）  
3,500人が条件なしの継続

1,892人 免許の取消し等を受けた者

【参考】4,736人 その他の警察活動等を端緒に診断を受けた者  
（1,318人 うち免許の取消し等を受けた者）  
※平成28年中、3,161人（うち免許の取消し・停止を受けた者は1,248人）

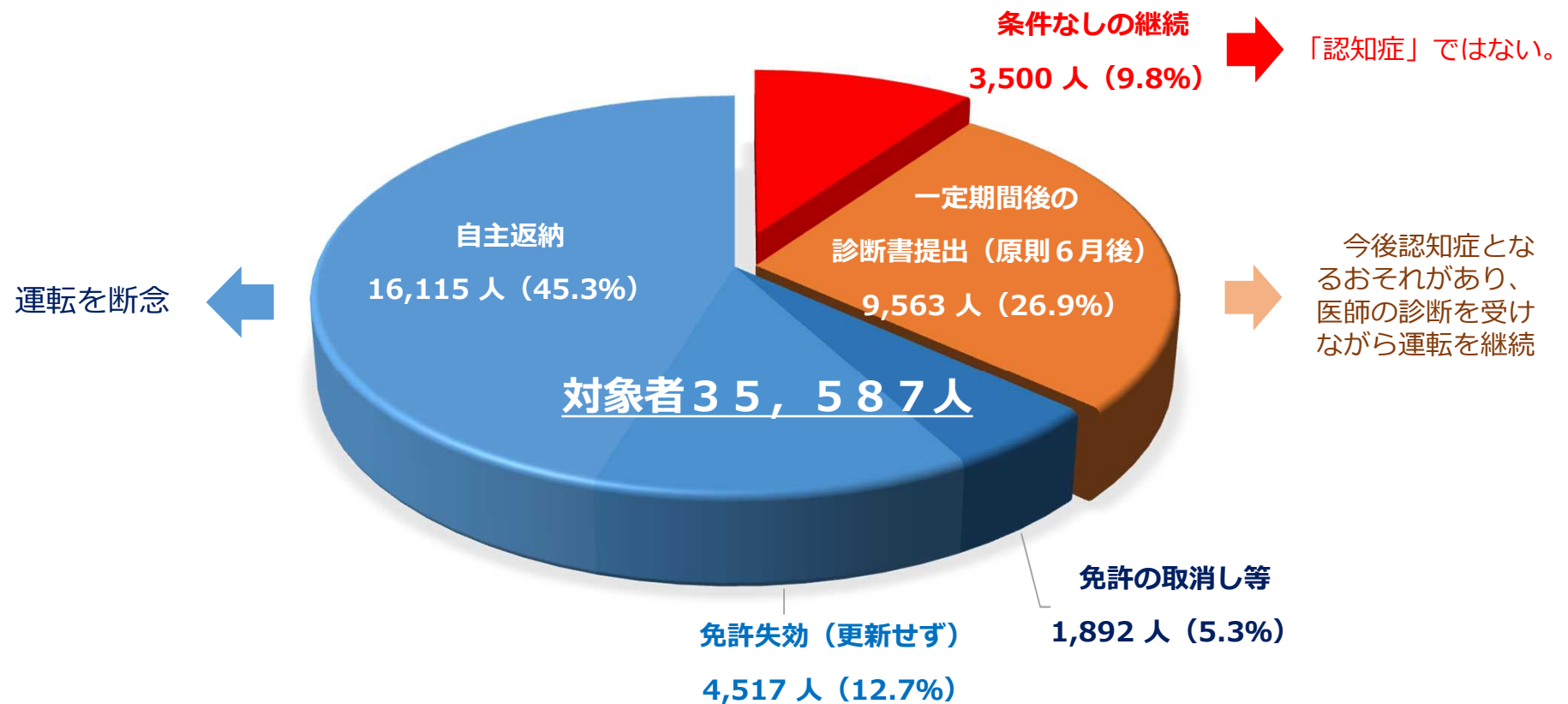
第1分類と判定された者(57,099人)の状況

再受検	8,385人	14.7%
自主返納	16,115人	28.2%
免許失効（更新せず）	4,517人	7.9%
手続中・診断待ち等	13,127人	23.0%
免許継続	13,063人	22.9%
一定期間後の診断書提出（原則6月後）	(9,563人)	(16.7%)
条件なしの継続	(3,500人)	(6.1%)
免許の取消し等	1,892人	3.3%
停止	(56人)	(0.1%)
取消し	(1,836人)	(3.2%)

# 改正道路交通法の施行状況

集計期間  
平成29年3月12日から平成30年3月31日

## 第1分類と判定された者の状況（再受験、手続き中・診断待ち等を除く）



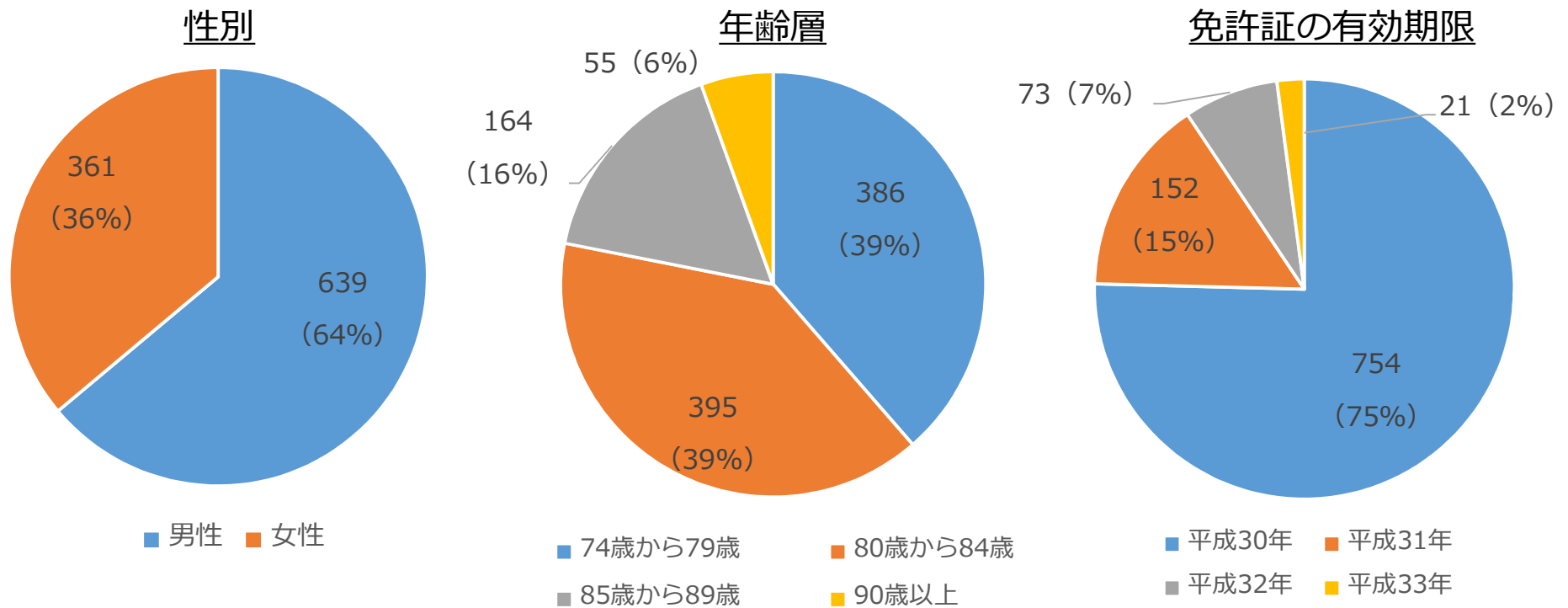
(注) 対象者35,587人は、第1分類と判定された者57,099人から再受験（8,385人）、手続き中・診断待ち等（13,127人）を除いた数

## 【調査概要】

- 対象  
運転免許証を自主返納した75歳以上の者1,000人を対象として実施した。  
※ 75歳の誕生日を迎える前の者（2人）を含む。
- 実施期間  
平成30年6月15日（金）から同年7月13日（金）までの間
- 実施場所  
都道府県警察の運転免許センター、警察署等
- 実施方法  
上記実施場所において運転免許証を自主返納した者に対し、アンケート形式の意識調査を実施した。
- 内容
  - ・ 運転していた主な理由
  - ・ 自主返納を考え始めた理由
  - ・ 自主返納を最終的に決断した理由 等

# 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

## ○ 対象者の属性 (n = 1,000)

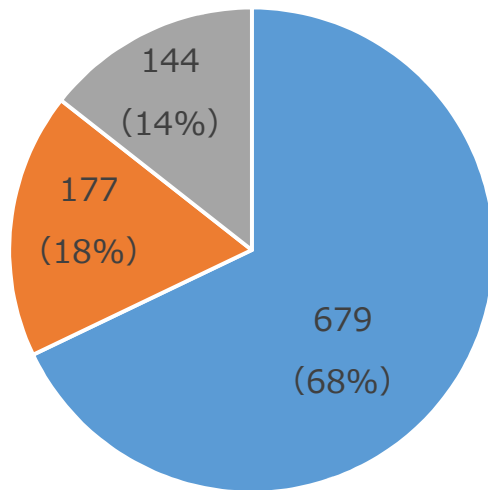


- 対象者の性別は、男性が64%で、女性が36パーセントであった。
- 年齢層は、80歳から84歳の者が最も多く（395人）、次いで74歳から79歳（386人）、85歳から89歳（164人）、90歳以上（55人）の順であった。
- 免許証の有効期限は、平成30年までの者が754人と全体の約4分の3を占めた。

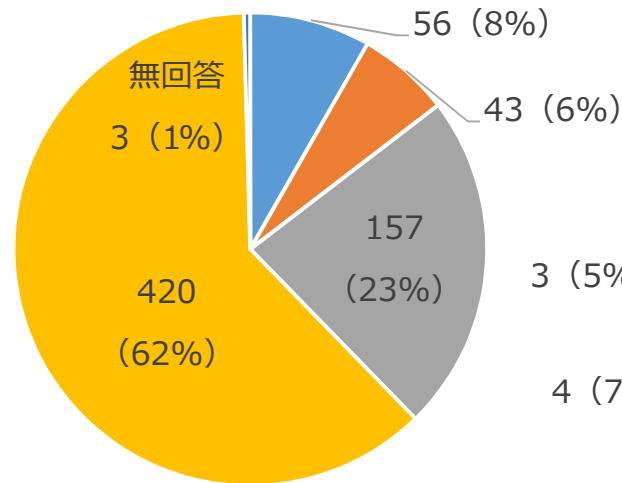
# 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

## 問1 認知機能検査の受検の有無等

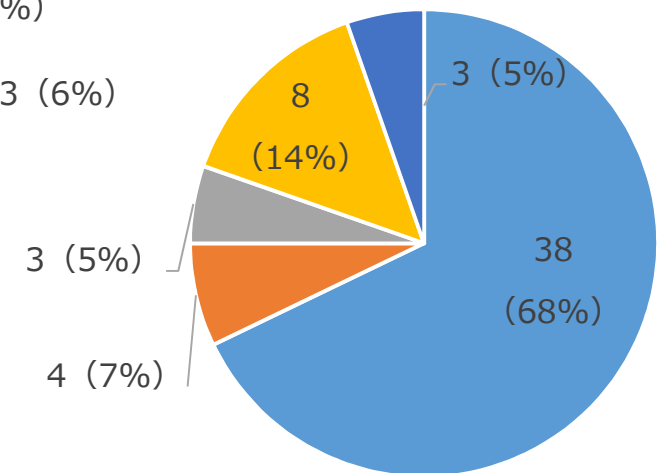
認知機能検査の受検の有無  
(n = 1,000)



直近の認知機能検査の結果  
(n = 679)



医師の診断結果  
(n = 56)

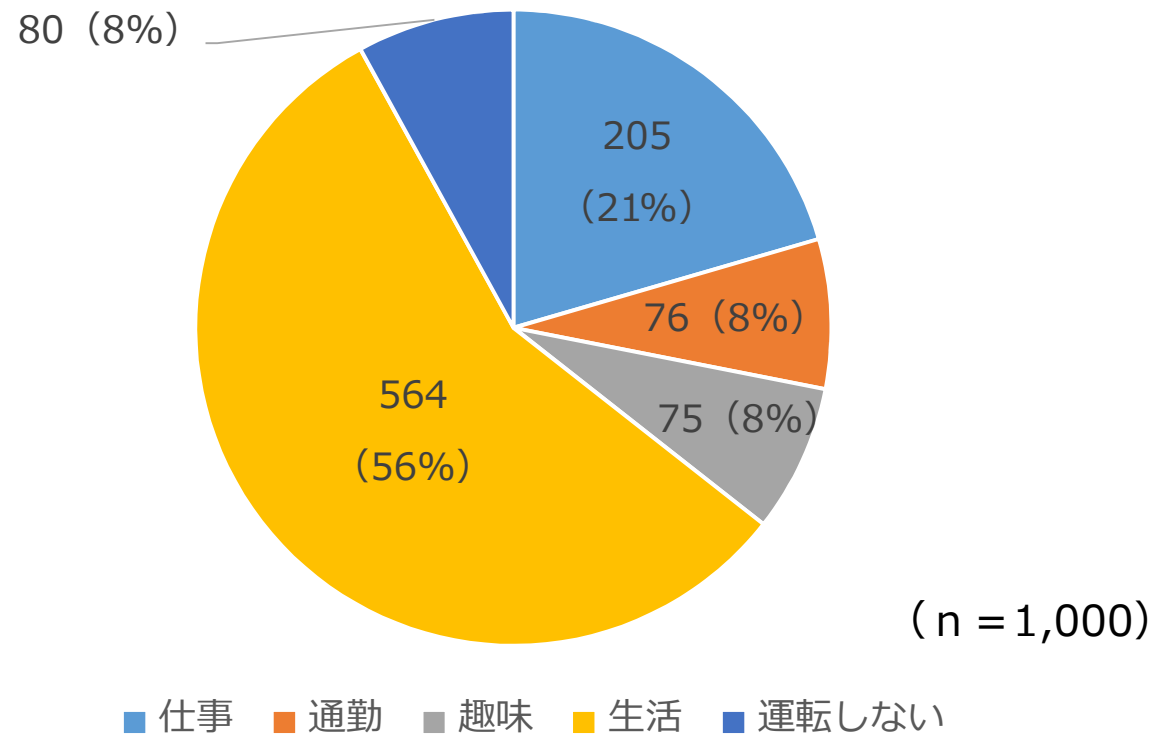


■ 受けた ■ 受けていない ■ 覚えていない ■ 第1分類 ■ 第2分類 ■ 第3分類 ■ 問題なし ■ 認知機能低下 ■ 認知症  
■ 覚えていない ■ 無回答 ■ 覚えていない ■ 無回答

- 認知機能検査を受検していた者は679人で全体の約7割であった。
- 自主返納者の直近の認知機能検査の結果は、「覚えていない」と回答した者が最も多く（420人）、次いで「第3分類」（157人）、「第1分類」（56人）、「第2分類」（43人）の順であった。
- 認知機能検査で第1分類と判定され、医師の診断を受けた56人のうち、「問題なし」と回答した者が38人で約7割を占め、「認知機能低下」は4人（7%）、「認知症」は3人（5%）であった。

## 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

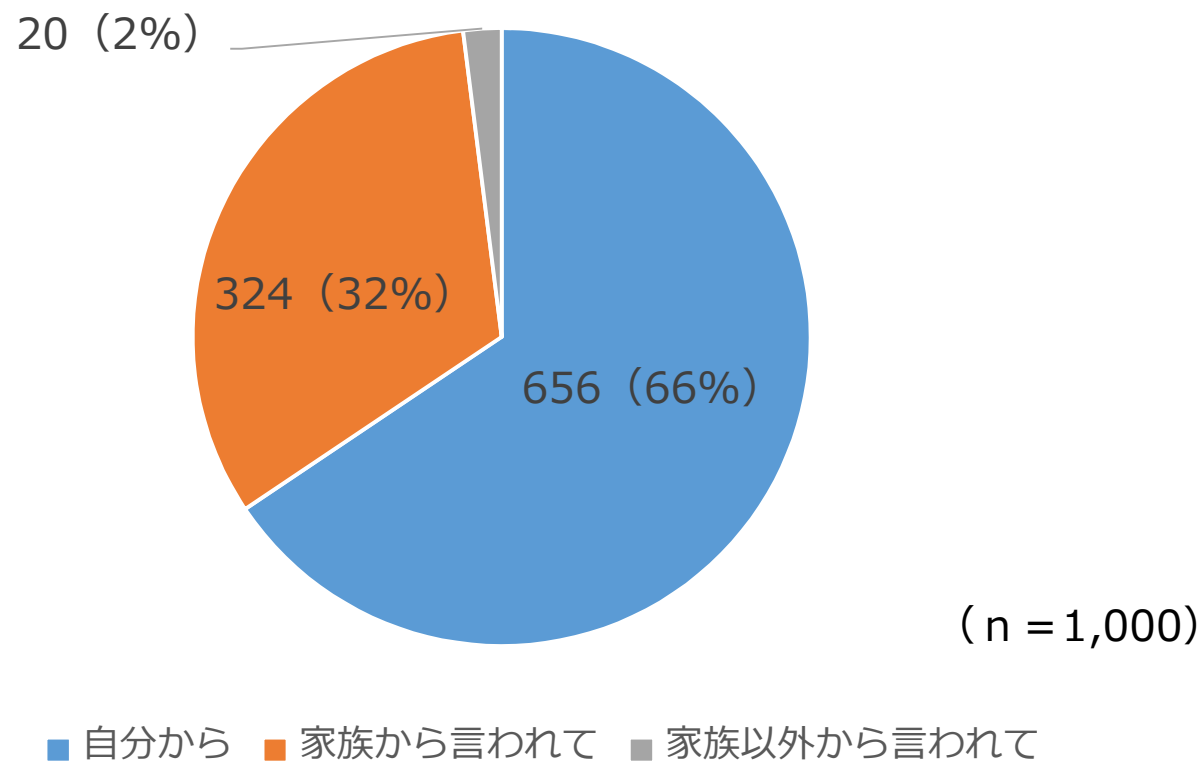
### 問2 運転をしていた主な理由



- 運転していた主な理由は、「生活（送迎、通院、買物等）」と回答した者が564人と最も多く（56%）、次いで、「仕事（農業や商売等で使う。）」が205人（21%）であり、以下、「運転しない」、「通勤（職場への往復で使う。）」、「趣味（ドライブ等）」の順であった。

## 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

### 問3 自主返納を考え始めた理由等



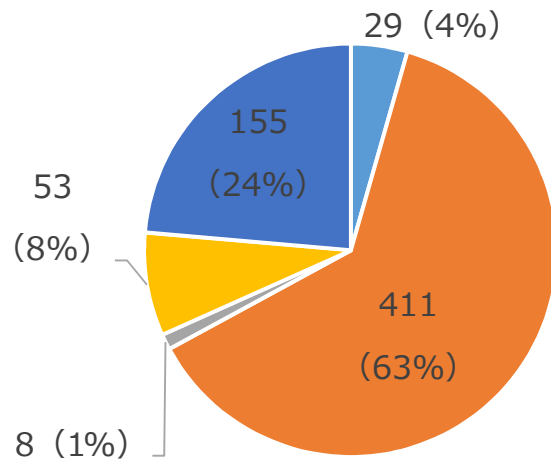
- 自主返納を考え始めた理由は、「自分から」と回答した者が全体の3分の2（656人（66%））を占め、「家族から言われて」と回答した者は324人（32%）、「家族以外から言われて」と回答した者は20人（2%）であった。



# 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

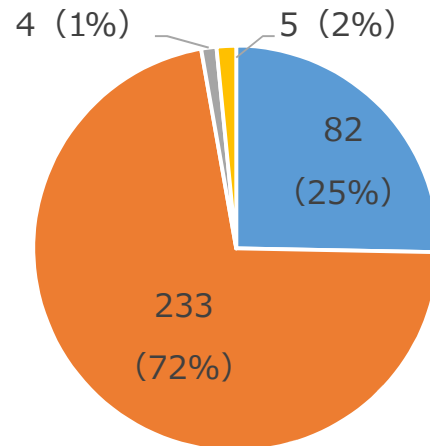
## 問4 自主返納を考え始めた理由等

「自分から」と回答した者  
自主返納を考え始めた理由  
(n = 656)



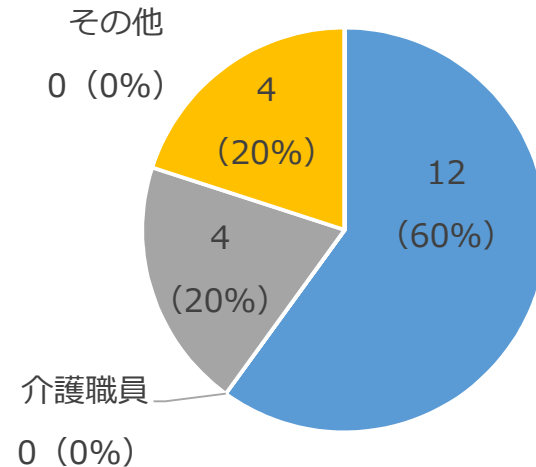
- 更新が面倒
- 事故を起こしたくない
- 免許を取り消したくない
- 免許返納後のサービスを受けたい
- その他

「家族に言われて」と  
回答した者  
誰に言われたか。  
(n = 324)



- 配偶者
- 子ども
- 孫
- その他

「家族以外から言われて」と  
回答した者  
誰に言われたか。  
(n = 20)



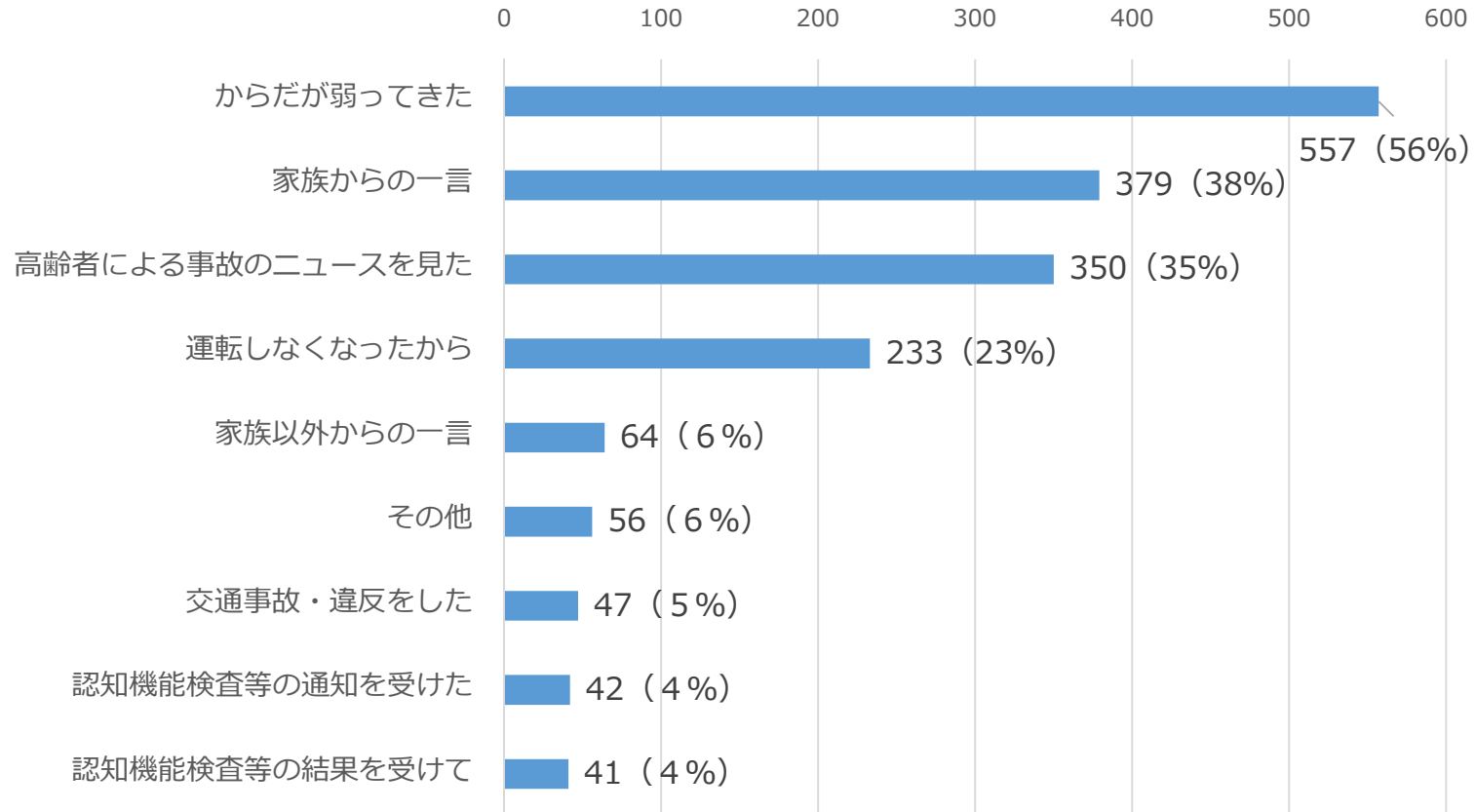
- 医師
- 介護職員
- 友人・知人
- 警察官
- その他

- 「自分から」と回答した者の自主返納を考え始めた理由は、「事故を起こしたくないから」と答えた者が411人と最も多く、全体の6割以上を占めた。
- 「家族に言われて」と回答した者のうち、「子ども」からと回答した者が233人と全体の7割以上を占めた。
- 「家族以外から言われて」と回答した者のうち、「医師」からと回答した者が12人と全体の6割を占めた。

## 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

### 問5 自主返納を決断した理由

(複数回答、n = 1,000)

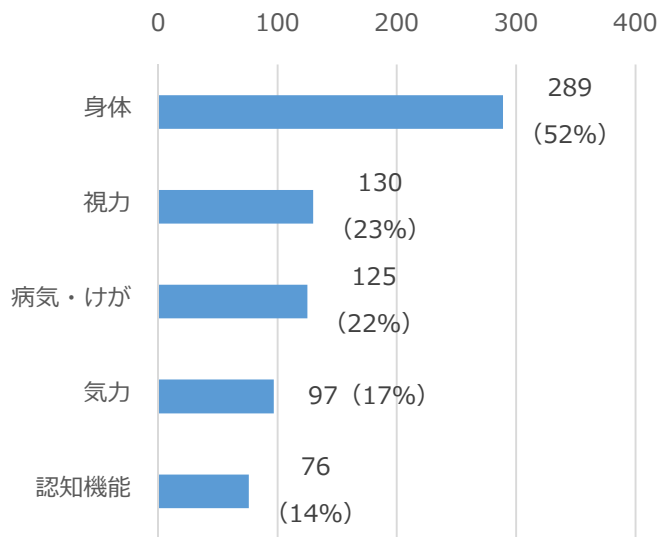


○ 自主返納を決断した理由は、「からだが弱ってきた」と回答したものが557人（56%）と最も多く、以下、「家族からの一言」（379人、38%）、「高齢者による事故のニュースを見た」（350人、35%）、「運転しなくなった」（233人、23%）、「家族以外からの一言」（64人、6%）と続く。

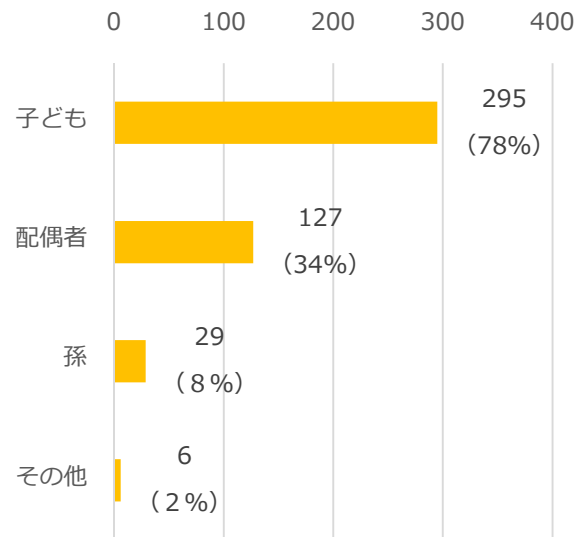
# 運転免許証の自主返納者に対する意識調査

## 問5 自主返納を決断した理由

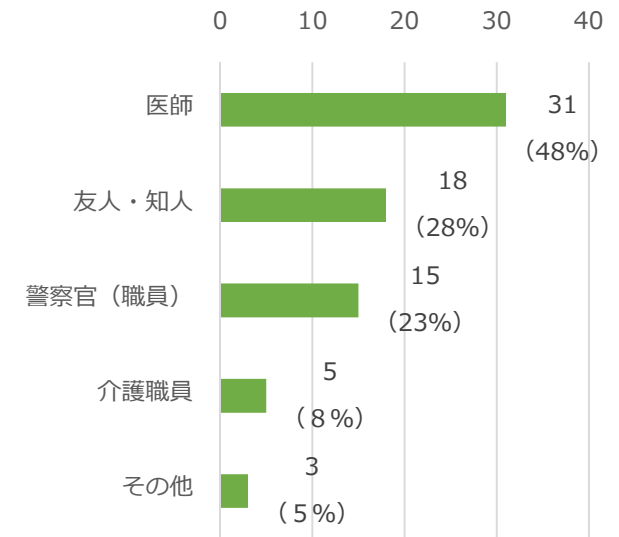
「からだが弱ってきたから」と回答した者  
具体的にどこが弱ったか。  
(複数回答、n = 557)



「家族からの一言」と回答した者  
誰に言われたか。  
(複数回答、n = 379)



「家族以外からの一言」と回答した者  
誰に言われたか。  
(複数回答、n = 64)



- 「からだが弱ってきたから」と回答した者が具体的にどこが弱ったかについて、「身体」と回答した者が289人(52%)と最も多く、以下、「視力」(130人、23%)、「病気・けが」(125人、22%)と続き、「認知機能」と回答した者は76人(14%)であった。
- 「家族からの一言」と回答した者のうち、「子ども」からと回答した者が295人と最も多く、全体の約8割を占めた。
- 「家族以外からの一言」と回答した者のうち、「医師」と回答した者が31人と最も多く、全体の約5割を占めた。

## 1. 調査対象

### 主な意見

- 第1分類と判定された者の内、一定期間後の診断書提出が求められている者が調査対象の中心と考えられる。彼らに対して、定期的に追跡調査を行うことで、どのような事故を起こすか、どのような運転行動を行うか等の特徴を分析できるのではないかと。
- 第1分類と判定され医師の診断の結果、認知症と診断され免許を取り消された者についても今回の調査対象とした方がよいのではないかと。

## 第1回分科会における主な意見

### 2. 調査方法（既存の保有データの活用）

#### 主な意見

- 過去、第1分類と判定された者を対象とした調査を行っているが、調査に協力してくれる人が少なく苦勞していた。今回の調査においても、第1分類と判定された者について、十分な人数を集めることは難しいことから、高齢者講習での実車指導の状況やその際のドライブレコーダーの映像など既存の保有データを活用することも検討するべきでないか。

### 3. 調査方法（実車と運転シミュレーター）

#### 主な意見

- MCIの人やリスクの判断が難しい人について、実車を用いた試験、もしくはそれに近い試験を実施して、運転能力を確認することが望ましい。
- 認知症の者を対象とした実車実験は、倫理面や安全面から困難ではないか。
- 認知症の者は、運転シミュレーターで運転能力を評価してはどうか。
- 運転シミュレーターでの調査については、「有効である」と「有効でない」との意見がある。
- 高齢者は、シミュレーター酔いがあり、実施は困難ではないか。
- 運転シミュレーターで調査を行う場合、短時間、特定のタスクなら酔いにくく、データも取れるのではないか。

## 1. これまでに実施した調査

○ 高齢運転者の認知機能検査・診断結果と違反・事故状況とのクロス分析 …資料6

○ 高齢者講習受講時の運転行動に係る調査 …資料7

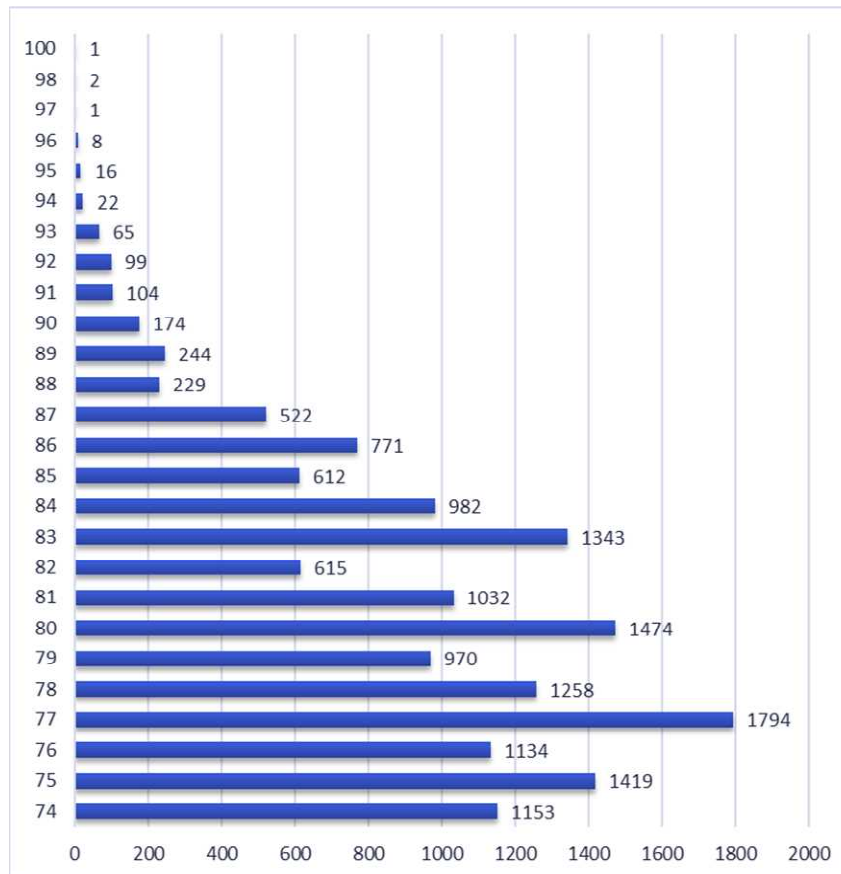
## 2. 今後実施予定の調査

○ 実車と運転シミュレーターによる調査 …資料8

## (1) 高齢運転者の認知機能検査・診断結果と違反・事故状況とのクロス分析の対象

- 改正道路交通法施行後（平成29年3月12日以降）、臨時適性検査等の対象になり、医師の診断書が提出された16,044人を対象とした。16,044人の属性（年齢、性別）は以下の通り。

### 対象者の年齢と人数の分布



### 対象者の性別

性別	回答者数（割合）
男性	13,567（84.6%）
女性	2,477（15.4%）
小計	16,044（100.0%）

# 高齢運転者の認知機能検査・診断結果と違反・事故状況のクロス分析

## (2) 対象者の診断結果

- 対象者における医師の診断結果別の、MMSE、HDS-R、認知機能検査の内訳は以下の通り。
- 全体平均以下の得点箇所には水色のマーカで示し、その中でも最低点の箇所を太文字で示す。
- 認知機能と、MMSE、HDS-R、認知機能検査（※）の得点は相関がある。認知症の得点状況は相対的に低い。
- MMSEとHDS-Rの得点は、「レビー小体型認知症」と「血管性認知症」について特に低い傾向が確認できる。
- MMSEにおいて、認知症の平均得点は22点以下であり、認知症の疑いのあるレベルとなっている。
- HDS-Rにおいて、認知症の平均得点は20点以下であり、認知症の疑いのあるレベルとなっている。
- 認知機能の状況を簡易的に検査する認知機能検査の総合得点平均では、MMSEとHDS-Rの平均点と似た傾向が確認できる。

医師の診断結果	人数	(割合)	MMSE		HDS-R		認知機能検査			
			平均点	件数	平均点	件数	総合点の平均	時間の見当識	手がかり再生	時計描画
アルツハイマー型認知症	2,294	14.3%	19.8	1,131	16.4	1,863	34.2	8.8	4.2	5.6
血管性認知症	324	2.0%	19.8	157	<b>15.8</b>	261	34.1	9.3	4.8	<b>5.0</b>
前頭側頭型認知症	50	0.3%	21.5	24	17.3	45	36.4	9.7	5.0	5.5
レビー小体型認知症	29	0.2%	<b>18.4</b>	19	16.9	24	<b>32.6</b>	<b>8.7</b>	<b>3.9</b>	5.3
その他(※)	314	2.0%	19.4	175	16.4	242	33.7	8.8	4.3	5.4
認知機能低下	9,601	59.8%	23.2	5,040	21.1	7,315	39.2	10.8	5.6	5.6
認知症ではない	3,432	21.4%	25.8	1,290	24.4	2,602	40.9	11.7	6.2	5.4
全体	16,044	100.0%	23.0	7,836	20.8	12,352	38.7	10.6	5.5	5.5

認知機能検査（※）：認知機能検査の総合点は、次の計算式により算出する。

$$\text{総合点} = 1.15 \times (\text{時間の見当識、配点15}) + 1.94 \times (\text{手がかり再生、配点32}) + 2.97 \times (\text{時計描画、配点7})$$

その他（※）：アルツハイマー型、血管性、前頭側頭型、レビー小体型の4類型を除く認知症（甲状腺機能低下症、正常圧水頭症など）



## 高齢運転者の認知機能検査・診断結果と違反・事故状況のクロス分析

### (3) 対象者の違反・事故件数

- 対象者の診断書提出前1年間の診断結果別の延べ違反件数、延べ事故件数を示す。
- 違反件数について、「アルツハイマー型認知症」、「血管性認知症」、「前頭側頭型認知症」、「その他」は、平均の違反件数より高い割合となっている。  
「前頭側頭型認知症」については、特に高い傾向が確認できる。
- 事故件数となると、「アルツハイマー型認知症」、「血管性認知症」、「前頭側頭型認知症」、「レビー小体型認知症」が平均の事故件数より高い割合となっている。
- 「前頭側頭型認知症」、「レビー小体型認知症」は、対象人数が少ないことについて留意する必要がある。

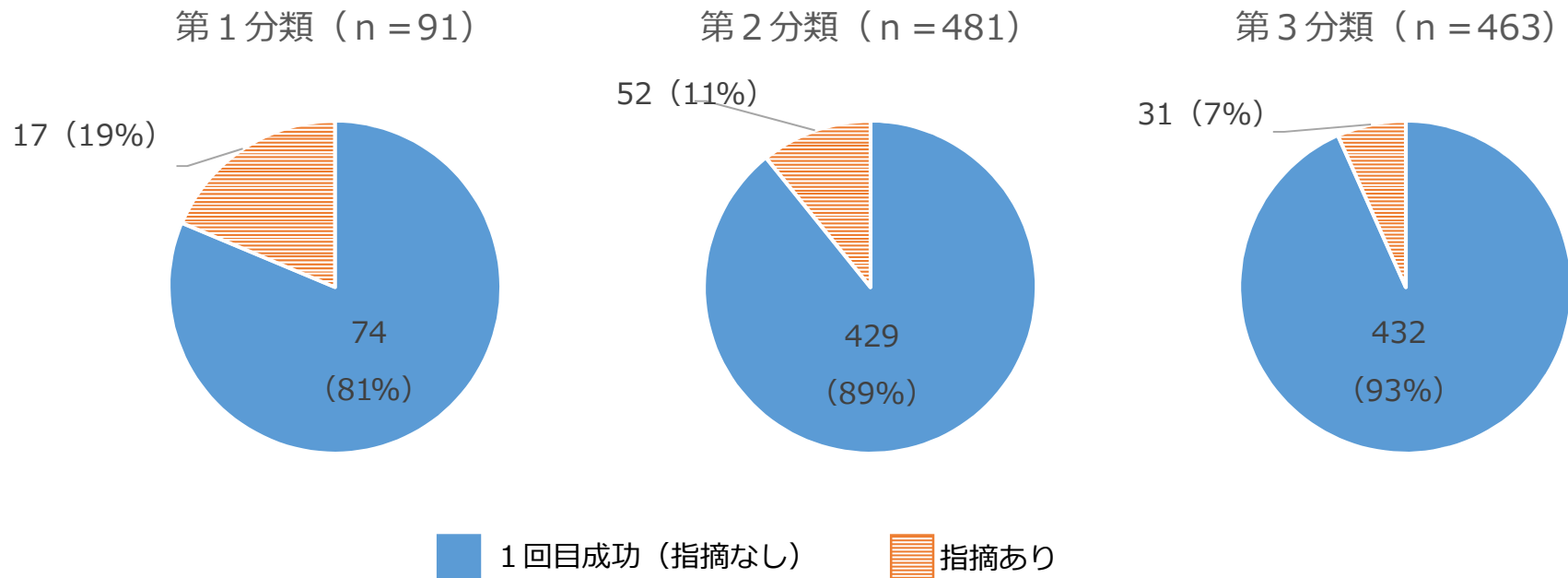
医師の診断結果	人数	延べ違反件数	(1人当たりの違反件数の割合)	延べ事故件数	(1人当たりの事故件数の割合)
アルツハイマー型認知症	2,294	472	0.2058	47	0.0205
血管性認知症	324	55	0.1698	8	0.0247
前頭側頭型認知症	50	18	0.3600	1	0.0200
レビー小体型認知症	29	4	0.1379	1	0.0345
その他	314	59	0.1879	4	0.0127
認知機能低下	9,601	1,487	0.1549	117	0.0122
認知症ではない	3,432	503	0.1466	47	0.0137
全体	16,044	2,598	0.1619	225	0.0140

## 【調査概要】

- 対象
  - ・ 総数は、1,960人  
そのうち、四輪の講習受講者は1,734人、二輪は226人
  - ・ 四輪の講習受講者1,734人のうち、  
認知機能検査受検者は1,126人、未受検者は608人
  - ・ 四輪の講習受講者で認知機能検査を受検した者1,126人うち、  
第1分類は102人、第2分類は505人、第3分類は519人
  
- 実施期間  
平成29年11月13日（月）から同年12月10日（日）までの間
  
- 実施方法
  - ・ 高齢者講習の実車指導時における運転行動について、運転行動診断票を用いてその状況を記録するとともに、車載のドライブレコーダーによりその様子を撮影する。
  - ・ 実車指導は、運動機能に関する課題（方向変換、見通しの悪い交差点、段差乗り上げ、車両感覚走行、パイロンスラローム）と記憶力・判断力に関する課題（信号交差点、一時停止交差点、進路変更、カーブ走行）により構成されている。
  
- 分析方法  
四輪の講習受講者を認知機能検査の結果により分類し、記憶力・判断力に関する4つの課題について、1回目成功（指摘なし）と指摘ありの割合を比較する。

## 高齢者講習受講時の運転行動に係る調査

### (1) 記憶力・判断力に関する課題 ～ 信号交差点 ～

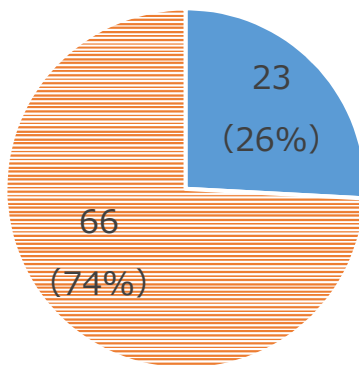


○ 信号交差点の課題について、認知機能検査の分類別の1回目成功の割合は、第1分類が81%、第2分類が89%、第3分類が93%であり、第1分類の1回目成功 (指摘なし) の割合が最も低い。

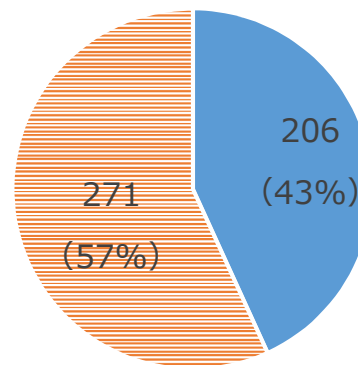
## 高齢者講習受講時の運転行動に係る調査

### (2) 記憶力・判断力に関する課題 ～ 一時停止交差点 ～

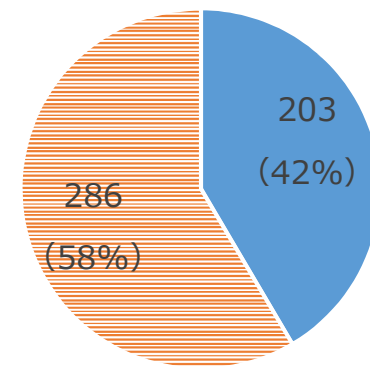
第1分類 (n = 89)



第2分類 (n = 477)



第3分類 (n = 489)



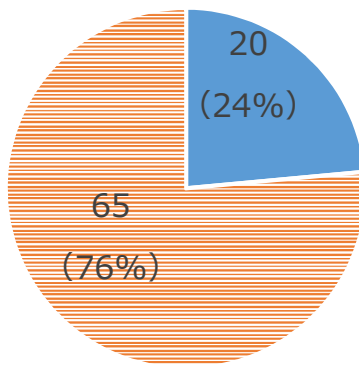
■ 1回目成功 (指摘なし) ■ 指摘あり

○ 一時停止交差点の課題について、認知機能検査の分類別の1回目成功の割合は、第1分類が26%、第2分類が43%、第3分類が42%、第1分類の1回目成功 (指摘なし) の割合が最も低い。

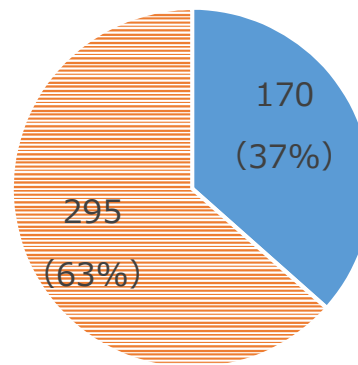
## 高齢者講習受講時の運転行動に係る調査

### (3) 記憶力・判断力に関する課題 ～ 進路変更 ～

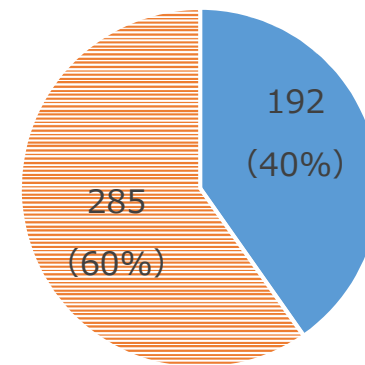
第1分類 (n = 85)



第2分類 (n = 465)



第3分類 (n = 477)

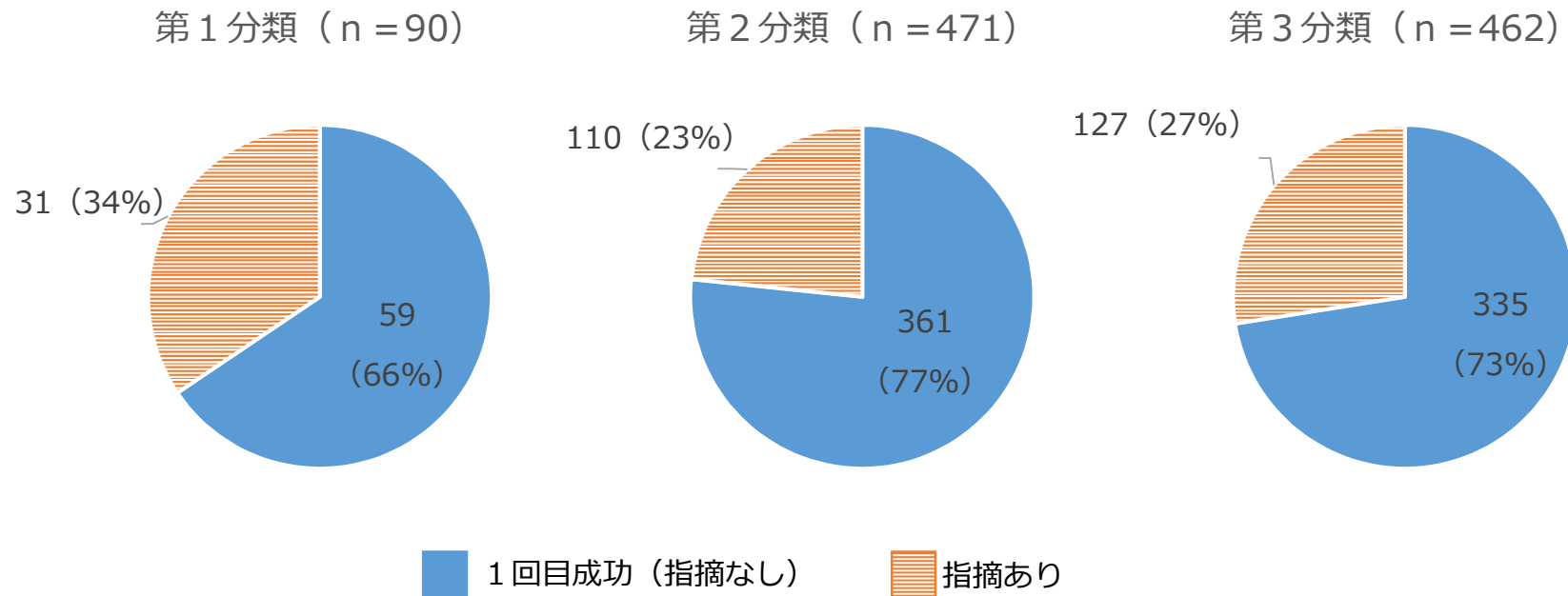


■ 1回目成功 (指摘なし)    ■ 指摘あり

○ 進路変更の課題について、認知機能検査の分類別の1回目成功の割合は、第1分類が24%、第2分類が37%、第3分類が40%であり、第1分類の1回目成功 (指摘なし) の割合が最も低い。

## 高齢者講習受講時の運転行動に係る調査

### (4) 記憶力・判断力に関する課題 ～ カーブ走行 ～



○ カーブ走行の課題について、認知機能検査の分類別の1回目成功の割合は、第1分類が66%、第2分類が77%、第3分類が73%であり、第1分類の1回目成功 (指摘なし) の割合が最も低い。

### ① 趣旨

- 一定期間後の診断書提出（原則6月後）、認知症の者、認知症ではない者（第3分類）の運転行動の特徴等を明らかにする。

### ② 具体的な調査方法

- 一定期間後の診断書提出（原則6月後）とされた者及び認知症ではない者（第3分類）  
⇒ 高齢者講習（高度化講習）と同様の実車と運転シミュレーターによる調査を実施。

- 認知症の者  
⇒ 安全面等を考慮し、運転シミュレーターによる調査のみを実施。

- 実車における運転行動診断票、ドラレコ映像、運転シミュレーターによる調査結果を分析し、一定期間後の診断書提出（原則6月後）とされた者等の運転行動の特徴等を把握。
- 上記運転行動の特徴等と過去の違反事故状況に関するクロス分析を実施。